

出演：柴咲コウ　赤楚衛二
原作：吉川トリコ『余命一年、男をかう』（講談社文庫）
脚本：岡田惠和　　監督：風間太樹

—— 72 万円の契約から始まる、予想外の大人のシンデレラストーリー

柴咲コウ × 赤楚衛二 W 主演！『8 年越しの花嫁 奇跡の実話』岡田惠和 脚本 x「silent」風間太樹 監督タッグで、ベストセラー小説を映画化！節約が趣味の独身女性・片倉唯、40 歳。恋愛、結婚はコスパが悪いのでパスして生きてきた。しかし、無料で受けたがん検診で、余命宣告を受ける。

余命、あと一年。唯の胸に湧いたのは恐怖ではなく、不思議な解放感。——「死ぬのなら、もう節約なんて必要ない」。そんな唯の前に現れたワケありピンク頭のホスト・瀬名。「お金、貸してくんないかな？」突然の申し出に、72 万円で瀬名を“買う”ことに。唯にとって人生初の“無駄遣い”の冒険が始まる。

原作は 2021 年第 28 回島清恋愛文学賞を受賞した同名小説。柴咲コウ、赤楚衛二の豪華 W 主演。監督は「silent」「海のはじまり」などで繊細な心の機微を描いてきた風間太樹が務め、原作の持つ“生きることへのまなざし”を丁寧に映像化。脚本は「さよならのつづき」『8 年越しの花嫁 奇跡の実話』の岡田惠和。

新鮮な実力派タッグが余命という題材を新たな視点で描き、チャーミングでユーモアあふれる世界観を丁寧に構築、人生の輝きを見つめ直す作品に仕上げる。

INTERVIEW

松本での撮影を決めた理由

唯のマンション、勤務先の会社、瀬名のホストクラブがある繁華街、それらが１つの道のりにあり、登場人物が歩く動線を豊かに想像できたこと。丁寧に舗装された道や、城下町ならではの賑わい、都会的な街から覗く山並みとの距離感、品と文化。その魅力が徒歩 15 分歩き続けても途切れることなく感じられ、作品のパーソナルカラーであるミントグリーン（唯が務める会社の制服カラー）との相性も抜群。これらをロケハンで目にし、松本市のトリコになりました。

実際に撮影してみてのご感想

ロケハンで感じていた魅力は、撮影を進めるごとに増幅していきました。
天気の移り変わりが激しい分、空の表情が豊かに映ったり。季節が夏から秋に変わる頃には、自然の彩りも光の届き方も空気の透け感もどんどん表情を変えていきました。
何より街の皆さまのご協力に支えられて…例えば「松本ぼんぼん」の提灯を川辺に残しておいて下さったり。
ロケハンの際に魅力に感じ、撮りたいと思っていた景観の為に、ご尽力いただき本当にありがたかったです。

お気に入りのシーン

物語中盤、70 時間のシンデレラタイムが終わり、唯が瀬名とお別れする場面です。
唯は瀬名に別れを告げ、夜の静かな橋を渡っていきます。
なわて通りにかかる「中の橋」と、下に流れる「女鳥羽川」、そして松本ぼんぼんのピンク色の提灯が１フレームにおさまる景観が、唯のこの時の内なる感情を代弁するように映っています。この景観が視覚的にも聴覚的にも作品にとって大切な「情緒」を与えてくれており、唯という人の心許ない一面にも寄り添ってくれているのです。

さらに松本で印象に残っている食べ物や場所

ロケハンと撮影期間の中で美味しいご飯をたくさんいただきました。中でも印象的なのは「野麦」の蕎麦です。
つゆ付けなしで、蕎麦そのものが美味しいと思えたこと、長野産の地粉で作られた蕎麦を松本製のざるから箸にとって食べるという、贅沢でローカルな魅力に溢れた時間でした。スタッフ一同で自転車を漕いで買いに行った「小松パン店」の牛乳パン、まつもと古市の皆さまにご協力頂けたのも印象深いです。

DIRECTOR

Hiroki Kazama

【監督】

風間（かざま）　太樹（ひろき）



1991 年 7 月 22 日生まれ、山形県出身。大学在学中、映画監督の根岸吉太郎・前田哲に学ぶ。2014 年に AOI Pro. 入社。
映画『チア男子 !!』（19）で長編監督デビュー。その後、ドラマ「30 歳まで童貞だと魔法使いになれるらしい」（20）が好評を博す。2022 年放送のドラマ「silent」は社会現象とも言える広がりを見せ、最年少で大山勝美賞を含む各賞を受賞。その他の作品にドラマ「海のはじまり」(24)、映画『バジーノイズ』(24)、『モブ子の恋』(26) などがある。





A 松本城公園 / 松本城

松本市丸の内１−１

現存する五重六階の天守の中で、
日本最古といわれる国宝・松本城。
黒と白のコントラストが美しい天守は
松本を代表する絶景スポット！
歴史あるお城を眺めながら、写真撮影
や周辺のまち歩きを楽しもう。

1 松本商工会議所

松本市中央１−２３−１

唯が働く機械商社の表、ロビーを撮影。
歴史を感じる建物の外観、さらに前の
道の雰囲気に惹かれ、選ばれた。
突然の瀬名の登場に、慌てる唯
のチャーミングさが魅力の素敵
なシーンが生まれた。

B 松本市観光情報センター

松本市大手３−８−１３
松本市役所大手事務所 1F

2 桝形（ますがた）広場

松本市大手３−３−１

唯と瀬名が買い物に出かける蚤の市の場所。
撮影時は、毎月この場所で開催されている
「まつもと古市」にご協力いただき、会期を
ずらして多くのエキストラ様協力のもと撮影
が行われ、撮影の合間にはキャスト・スタッフ
も買い物を楽しんだ。

3 千歳橋（せんさいばし）

唯と瀬名が幸福な時間を過ごした橋。
撮影当日はあいにくの曇り空だった
が、いざ撮影がはじまると晴れ間が
現れ、スタッフも大喜び。
さらにエピローグにも登場する印象
的な場所。

4 本町通り

クランクイン初日、最初の撮影場所。
毎朝の通勤路を歩く唯からはじまった。
バスには乗らず、会社まで制服とスニーカー
で徒歩通勤するのが唯のスタイル。主人公が
暮らす街並みと黙々と歩く唯に作品のはじま
りを感じた。



C 松本市観光案内所

松本市深志１−１−１
JR 松本駅改札正面左

ロケ地巡りをもっと楽しむための
観光パンフレットを各種ご用意！
情報センター（B）では、お土産
品も販売しています。





5 旧アクアボーノ

松本市大手４−１−６

瀬名の実家、レストラン一葉亭の場所。
監督がロケハン中に「この動線で歩いて
帰ってきて、角を曲がったところに、
一葉亭があるといいね」と話していた
ところ、まさにその通りの店を発見。
内装・外観を改装して撮影に使用。



6 なわて通り、なわて横丁

瀬名の実家・一葉亭に向かう道中、唯、
瀬名、実稲が歩いた道。唯の心情とは
裏腹に牧歌的な雰囲気で劇中に登場。
風情ある街並みに、飲食、骨董などさま
ざまなお店が並ぶ居心地の良い空間。



7 デリシア庄内店

映画の冒頭シーンでも印象
的に登場する他、幸せな日々
など様々なシチュエーション
で登場するスーパー。
撮影は閉店後の深夜から朝
にかけて行われた。

NOT FOR SALE

Netflix 映画『余命一年、男をかう』© 吉川トリコ／講談社
一般社団法人松本観光コンベンション協会